

山口大学医学部附属病院で診療を受けられる皆様へ

当院では、以下の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、以下の問合せ先までお申出ください。

その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

① 研究課題名	Dual energyダイナミック造影CTを用いた肝臓のヨード量に関する検討：正常群と肝硬変群との比較		
② 実施予定期間	実施許可日から 2026年3月31日		
③ 対象患者	以下の対象期間中に当院の対象診療科で Dual energy ダイナミック造影CT 検査を受けられた 30歳以上の患者さん		
④ 対象期間	2021年5月1日 から 2022年12月31日		
⑤ 研究機関の名称	山口大学医学部附属病院		
⑥ 対象診療科	第一内科、第一外科、第二外科、泌尿器科、放射線科		
⑦ 研究責任者	氏名	伊東克能	所属 放射線科
⑧ 使用する情報等	識別コード、年齢、性別、既往歴、現病歴、CT画像、血液検査（ビリルビン、アルブミン、AST、ALT、プロトロンビン時間、血小板数）		
⑨ 研究の概要	<p>肝臓ではウイルス性、アルコール性、非アルコール性、自己免疫性などによる炎症が長期に持続すると、肝細胞の破壊と再生が繰り返され、徐々に線維化が生じて肝硬変となります。形態的には、肝硬変では肝右葉や内側区域が萎縮し、尾状葉や外側区域が代償性腫大することが知られており、Couinaud分類で分けられる各区域の体積に変化が生じます。また、線維化の程度によりダイナミック造影での増強効果にも差が出ることが予想されます。</p> <p>近年技術が進歩したDual energy CTでは、管電圧の異なる2種類のX線で撮影することにより、造影CTでのヨードマップを作成することができるようになりました。この技術を用いることで、肝臓の各区域のヨード量を定量することができますが、正常群と肝硬変群における各区域の体積変化と造影効果との関係については未だ十分な検討はされていません。</p> <p>本研究の目的は、Dual energyダイナミック造影CTを用いて肝臓の各区域の単位ヨード量を測定し、正常群と肝硬変群で比較することです。肝硬変における各区域の体積変化と造影効果の関連性を解明することは、画像診断において血行動態や線維化の程度を推測する上で重要な所見となります。</p>		
⑩ 実施許可	研究実施許可日	2023年 2月 13日	

⑪ 研究計画書等の 閲覧等	研究計画書及び研究の方法に関する資料を他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で入手又は閲覧できます。詳細な方法に関しては以下の問い合わせ先にご連絡ください。		
⑫ 結果の公表	学会や論文等で公表します。		
⑬ 個人情報の保護	結果を公表する場合、個人が特定されることはありません。		
⑭ 知的財産権	山口大学に帰属します。		
⑮ 研究の資金源	放射線医学講座の奨学寄付金にて行います。		
⑯ 利益相反	ありません		
⑰ 問い合わせ先・ 相談窓口	山口大学医学部附属病院 放射線科 担当者：田辺昌寛		
	電話	0836-22-2285	FAX 0836-22-2285